

○5番（山口良広君）〔登壇〕

こんにちは。私、ただいまより登壇の許可を得ましたので、山口良広の一般質問をしたいと思います。私に与えられた時間は130分ですので、一生懸命頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。（「90分」と呼ぶ者あり）90分か、どうもすみません。

私の一般質問では、行政視察対応について。次に教育問題について、学校におけるいじめ対策、体罰に関するアンケートの公表について。そして農業問題について行いたいと思います。

その前に、農業問題ということで、T P Pの問題で、今、大きく騒がれております。県内の市町村では、意見書の提出ということで、いろんなところが動いております。今、小池議員を中心にしてT P Pに対する意見書の提出ということで検討されておりますので、その際、皆様の御協力をよろしくをお願いします。

私は、この問題では、農業は守るべきだと思うし、またそれと同時に、これが米がもし自由化で規制緩和でもなったら、つくる自由、売る自由の中で大変な米の販売をするんじゃないかなというふうなことを考えております。ぜひ皆様の御協力よろしくをお願いします。

では、私の質問に移ります。今回、私は会派の研修で、まちづくり、地域のものづくり、また観光ということで、金沢のほうに研修に行きました。今、新幹線、北陸線の金沢駅乗り入れを2年後に控えて、金沢のまちは活気づいておりました。そんな中で、J R金沢駅のすばらしさ、またいろんな施設や観光施設を回ったですけど、そんな中で、いろんな人が一生懸命これに期待して、まちづくり、市づくりがつくっておられているのが印象的でした。武雄も数年後には新幹線が乗り入れがされます。それに向かって、ぜひ大いなる市民運動として盛り上がることを期待したいと思います。

そんな中で、私はおもてなしの心というもので質問したいと思います。それは金沢市役所に行ったときです。私たち、案内された部屋で、温かいお茶を一人一人にふるまわれました。寒い北国の身も凍るような中で温かいお茶です。最高のもてなしです。もしここに冷たいペットボトルでもあったら、寂しいというものを感じたものです。

そこで私は提案したいと思います。武雄はお茶どころです。それと焼き物の産地です。それをセットにして、武雄市役所に行政視察の方におもてなしができないか。武雄は出湯と陶芸のまちで有名です。ぜひお願いしたいわけです。

この焼き物でも、私は地元の陶芸家の焼き物というものを利用されないかというものがここでの市の提案です。そしてそれを一、二カ月、できれば2カ月単位ぐらいで窯元に提供をお願いして、その焼き物でこれは武雄内でできた焼き物ですよ。そしてそういうことが会話の一つになり、その行政視察の団体の皆さんが窯元めぐりでもしたいなというふうな声が出るような雰囲気をつくって、ぜひ窯元まで足を運んでもらうような形での行政視察対応というものができないかということをもっと質問したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

行政視察のお話がありましたので、ちょっとグラフにしてみました。（資料を示す）これ、電子版じゃなくて恐縮なんですけど、合併したときが18件ですよ。それが平成24年だと1月までに154件で、恐らく平成24年は180件になろうとしています。これ掛ける10となると、もう1,500人の、あるいは1,800人の皆さんたちが武雄市に平日お越しになっていると、平日ですよ。お越しになっているということからすると、今、議会事務局の特に奥さんが、奥さんの奥さんなんですけど、非常によくやってもらっています。今、私もよく視察対応はしますけれども、議長も対応していただきますけれども、今、レモングラスティーをグラスに入れて出していると。しばらくすると、お茶を奥さんがよく頑張ってお出されています。

そういう中で、先ほどちょっと器ですよ、部分については、確かにそうだなと思いましたので、ここは話すきっかけにもなりますので、ぜひ山口良広議員から呼びかけて（発言する者あり）いただきたいと思います。なかなかやっぱり行政が言うと、何かちょっと僕らは非常におくてですので、やっぱり突破力のある山口良広議員様にそれをお願いをできればありがたいなと思っております。おっしゃったことについては、全く同感です。

これが今回はだめでも、次にじゃあ来たときに窯元に行きたいとかというふうになるように、我々もそういうふうに工夫をしていきたいと思っております。今、武雄の産品でやっていますのは、今、来た議員さんたちにFB良品をカタログ化して、これはうちの古賀敬弘さんのアイデアなんですけれども、カタログにして売っているんですよ。売って、買ったものを後で送りますと。お名刺いただきますので、お名刺を控えた上で、同意を取った上で、お金をいただいて送っていると。これが多いうち、月間でも50万円超しているんですよ。その議員の皆さんがお越しいただくのが。ですので、もちろん、物産館に行ってもらったりしてもおられますけれども。そういう意味で我々とすれば、武雄のいいものですよ、黒岩幸生議員からもありましたように、武雄のきちんと名のつくものをしっかりそういう場を使って今やっているということは、今やっております。

その中で、これは私から最後にしますけれども、なるべくせつかく来ていただいたので、おっしゃったように、窯元であるとか、さまざまのところに行ってくださいように、動線づくりというのはちゃんとしていかなければいけないなと思っております。図書館がオープンすると、恐らく物すごく行政視察がふえると思います。泊まっていたいただいた方々に対しては、それはちゃんと受け入れますけれども、なるべく図書館で私自身説明をしたいと思っております、図書館で。ですので、特にこうします、2泊3日で来られた方は図書館でやります。1泊は市役所。ですので、2泊3日泊まれた方は図書館でやりたいと思っておりますので、これは結構全国の方々が見られていると思っておりますので、そういうことで我々ができることは、やっぱり

多くの皆さんたちに来ていただくと。特に議員の皆さんたちはまた発信力がありますので、それを次の観光につなげていくということも含めて、私どもは考えなきやいけないなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ私に与えられた使命と今言われましたので、ぜひそういうメンバーの方と会合する席には、こういうふうにして市役所に売り込んで行かんやということば、（発言する者あり）貸してくいございて言いたいと思います。

そんな中で、今、宿泊のことが出ました。（発言する者あり）

ここに新聞がありまして、2012年3月の佐賀新聞です。「武雄市の行政視察急増、宿泊先、旅館さっぱり」という新聞です。「ユニークな事業を打ち上げ、全国各地の議会から行政視察が絶えない武雄市。宿泊による経済効果も出ているが、市内のビジネスホテルとシティホテルに集中し、温泉宿に泊まる議会はほとんどない。政務調査費などの公費で泊まるため、「温泉宿は歓楽のイメージがあって報告書に書きにくい」というのが主な理由」というふうに掲載しており、くっきり明暗が分かれ、宿泊施設団体が潤ってほしい市や温泉関係者は困惑しているというのがあります。ぜひ今度、今市長が言いましたように、図書館も新しくなりますと、またこれ以上の数字の行政視察があると思うわけです。それをやっぱり私はおもてなしの料理や観光事業につながるような形で温泉旅館あたりに泊まってもらうために、これまた結局、市がするでもなく、ただ本来ならば、業者の方がこういうふうなメニューを持っているから宿泊をお願いしますという前向きなる行動があっというんじゃないかと思っているわけです。

例えば、今、市内に若い農業後継者の組織してあります武友会という組織がありまして、これは農業者団体です。そのメンバーと武雄市内の旅館が手を組みまして、自分たちがつくった農産物で料理をつくるというふうなイベントをやってみたり、朝市に商品を使ったもので料理をしていますとか、先ほど言いましたように、市内の焼き物を器にしている料理で飾りますよとか、また、僕らがつくっていますレモングラスを使ったお風呂ですとか料理とか、またイノシシを使いました料理というふうなアピールをぜひ温泉街の旅館のおやじさんたちのほうから声を出してもらおうというのが何よりだと思っております。そんなことを市としても、ぜひこういうような形で、ここに金が落ちるんだから、それを皆さんも温泉街に泊まってもらって、所得向上につながりませんかというふうな声かけというものをして、そういうふうなことになるれば、F B良品にしても、いろんな商品にしても、もっと地元が潤って、地元が活気があってこそ、本当の行政だと思っておりますけど、その点どう思われるか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それはやっぱり議員が御指摘のとおり、旅館であるとか、飲食に携わる皆さんたちのお気持ちだと思いますよ。僕らは行政ができることというのは、やっぱり武雄までいっぱい人を連れてくるというのは行政でできます。ですが、その先にじゃあどこに泊まっていたかということに関しては、それは魅力をちゃんと持った上で、旅館であるとかホテルであるとか、レストランもそうですけれども、やっぱりきちんと発信をすることじゃないでしょうか。それが僕はおもてなしであるし、それが競争だと思っています。

おかげさまで、これは武雄市議会のおかげで、今、行政視察を含めて、もう圧倒的にふえて、今度、図書館も多分、年間で100万人を越す勢いになってくると思うんです。そのときにいろんな問題とか課題とか、山口裕子議員さんからもあったように、交通渋滞とか、多分問題出てくると思うんですよ。ですが、多くの皆さんたちにお越しいただくという意味では、これは非常に意味があると思っていますので、ぜひこれを聞いておられる、例えば、旅館の方とかホテルの方は、図書館と連携したパックでもつくってほしいと。パックは顔だけじゃありませんよ。ですので、そういうパックとかツアーをつくった上でね。それは僕もある意味、もう広告塔ですので、私も使ってくださいということで、ぜひ、やっぱり今、資源があります。

それでよく言われるのは、もっと温泉売れとか、もっと陶芸やれとかといろいろ言われるんですけど、それだけじゃだめなんですよ、やっぱり。もう全国同じことをやっていますから。ですので、図書館が今度はある意味、情報の発信になるということになれば、それは全国とは違う意味で人を引き寄せる大きな力になる。ですので、それをぜひ図書館を、またこれいろんな御批判はあるというのは重々承知していますけれども、ある意味、今度日本最強の図書館です。私、今まで世界で一番好きだった図書館が、ニューヨークパブリックライブラリーだったんですよ。こんなニューヨークパブリックライブラリーなんかはるかに超えていますよ。これみんな笑いますよ。笑うんだけど、僕は中に入りました。入って、その空間に圧倒されました。ですので、そこでやっぱりまた来たいとか、ここで本を借りたいっていうので、観光の一つの大きな要素になると思いますので、ぜひそういう意味で、図書館であるとか、あるいは武雄市政であるとか、病院もそうだと思うんです、新武雄病院も。それとうまく連携して発信するように、また改めて旅館組合等をお願いをしたいと。それに頑張っているところは僕らも応援します、徹底的に応援します。底上げは、もう無理なんです、底上げは。ですが、頑張っているところをやっぱり応援するというのは、僕らの得意技ですので、そういう意味で、ちゃんと応援をしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私もぜひ今昼間に図書館には年間100万人のお客が来るというふうな、（発言する者あり）超すというふうな感じを聞いたわけです。今、私もお酒が好きでありまして、夜は川端通りに行くわけです。その際に、今、地域のよそのほうから聞くわけです。武雄のまちの夜は元気かねえて。（発言する者あり）あれだけの夜の元気が昼間にもどがんでないとして武雄んまちに金が落ちるような政策というものが私は必要だと思うです。それができてこそ本当に武雄市民が、ああ武雄市は頑張っている、これにうまいところ乗れば、我々の懐ふえるなというふうな——つながると思います。ぜひそういうふうな形で我々もいろんな機会の中でこの図書館とか、いろんなものをうまくミックスした形で頑張ってもらうように発信したいと思います。よろしくをお願いします。

次に、教育問題について移ります。

最近のマスコミ報道を踏まえて、なぜいじめが多発するのか。いろいろなところで川原議員のほうからもありましたように、全国で報道されているわけです。その背景を教育長としては、どういうふう考えておるか、見解をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いろんな報道についてですが、私どももいろんないじめを体験しながら成長してきただろうというふうに思うんですね。調査によりますと、子どもたちの8割以上が加害者側と被害者側、両方に丸をつけるというんですね。つまり、それぞれ人間として、やっぱりそういう両面を持っているというのが現実のようであります。しかも、そのほとんどが半年前にした調査と変わってくると。「いじめを受けていますか」、「いじめられていますか」ということに、それがなくなってみたり、「いじめしていますか」に今度丸がついたりというふうですね。

ですから、ほとんどのいじめは、やっぱりいつの時代もあるわけですがけれども、半年ぐらいを超すような長期的な継続のないいじめというのは、数的には非常に少ないというようなことも言われるんです。ただ、お話にありましたように、東京とか愛知とか福岡では、中学生の自殺の例もありまして、大河内君とか鹿川君とかいう名前がまだ浮かんでくるわけであります。本当に悲痛な叫びを残して亡くなった子どもたちも片方にはいるわけでありまして、そういう子どもたちの叫びに絶対そういうことは、こんな目に遭わせたらいけないというのが今の私たちの新たな覚悟であろうというふうに思います。そのたびに、どうしてこう気づけなかったのかというような反省が、あり方が問われてきているわけです。

今申しましたように、特徴的なことは、ほとんどやっぱりスタートは、ほんな冷やかしと

か、からかいとか、嫌なことをさせるとか、仲間外れ、無視、軽くぶつ、金品を隠す、盗むとか。最近では、どうしてもインターネットを使ったネットの掲示板への書き込みと。それをまた今度は第三者があおるといような、非常に見えにくい情報モラルでのいじめ等も特長として出てきているということでございます。

いじめの背景、簡単にはなかなか言えませんで、どの例もやっぱりいろんなのが複雑に絡んでいるというのが事実でございます。児童・生徒の対人関係をうまく育て切れていないということもありますし、あるいは先ほど来の質問にありますように、本当に学校で満足感を持って夢を持った生活ができているかなというようにもあります。あるいは家庭の問題として、やはり少子化の時代というようにもありますし、一番子どもがふだんに学校で教える側としてどうかというようにところも常々反省しながらやっているわけですが、一つ一つの例が、背景といえども非常に複雑に絡み合っているというのが現実でありまして、現在のところ、そういう把握をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

このいじめというものは大変な問題でありまして、児童・生徒の生命、身体の安全を預かる学校としては大事な責務だと思っています。そんな中で、このいじめ対策というものは、いじめをどうするかといたら、どうしても学校だけでは無理があると思うわけです。そんな中では、家庭、特に保護者、地域社会との連携ということで、後ろに朝日の区長会の方も見えておりますけど、朝日のまちづくりのほうでは、武雄中学校に昼間の時間帯に校舎内見回りというふうな形もやってみたり、いろんな活動がなされているわけです。

武雄中学校も一時的に荒れた学校ということでレッテルを張られたりしていたわけですけど、そんな中で、保護者、地域との連携が必要ということで、今、武雄中学校のほうでは、学校取り組みとして、武中のちからという地域先輩の力をかりた活動が行われているわけです。もしよかったら、教育委員会が把握されている範囲内でいいですので、その活動内容等、御報告してもらえればありがたいですけど、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）お話しのように、武雄中学校では、「武中のちから構想」ということで、一番上に書いてありますように、家庭・学校・地域連携支援体制づくり推進事業という名目で、平成23年度、平成24年度、一応、来年度まで計画をしているわけです。その事業の支援も受けまして、「武中のちから構想」というのを推進をさせていただいております。

学校のそれぞれの努力に加えまして、家庭、地域の方の応援を得て、さらに元気な、本気

な大人との出会いということで進めてもらっているわけでございます。一例を、構想でございます。家庭の力、学校の力、地域の力を合わせまして、特に地域の方が入っていただくことで、異年齢の交流とか、そういうことまで含めまして、中心を武中のちから実行委員会ということで、ちょっと見えにくいかわかりませんが、コミュニティーの日とか、校内見守り隊とか、武中応援団とかお話し会「ほんわか」、土曜学習会のボランティアとか、赤ちゃん登校日とか、本当にさまざまなことを発案していただいて、家庭・学校・地域が連携した支援体制づくりをしていただいております。そういう中で、キャリア教育の推進、将来を見据えた子どもたちを育てると。それから同時に、PTA活動の活性化にもつながるという取り組みでございます。

一例としまして、お話し会「ほんわか」ということで、最初は中学生に読み聞かせというのがどう通じるのかというような話もされていましたが、本当に真剣に子どもたちが、生徒は聞いてくれるというような話を聞いております。また、3年生の家庭科ですね。育ち合い講座と、胸までもない保育園児との交流でございます。最初、どう接していいかわからない、どきまぎした様子が、次第に笑顔になっていくというようなことも聞いております。赤ちゃん登校日ですね。お母さんのほうがちょっと心配されていたというような話も聞いておりますが、いろんな交流ができていくということでございました。6月18日は武中のちから実行委員会ということで、生徒会の本部役員と実行委員の方が懇談会もされているということでございます。

いろんな課題が今言われますけれども、特にいじめ等につきましては、その学校の生徒諸君がどういうふうな動きをみずからできるかと、やっていくかというところが最終的な狙いかなというふうな気もいたしております。そういう意味で、実行委員会の人初め、皆さん初め、いろんな方がいろんな形で応援に入っていただくという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、こういうふうな形の中で、地域との連携というものが大事なことだと思います。それにプラスしますけど、この前、今度は我々より3つ先輩が武雄中学校の同窓会をやるということで、その第1回目の実行委員会を武雄中学校の校長室でやるということであったわけです。「同窓会の準備ば武雄中学校でや」と言うて、「そがんところでなしすつとや」というふうな話を聞いたわけですけど、校長先生のほうから、ぜひ地域の方に中学校の現状というものを見てもらって、いろんな形で、先ほどの話じゃありませんけど、協力する分があったら、声でもかけてもらって、いい中学校、いいまちの子どもたちと一緒に育てましょうという思想のもとで頑張っていますよというふうな話を聞いたことも紹介したいと思います。

次に、体罰に対するアンケートの公開についてです。

市内では、体罰に対するアンケートが実施されたと聞き及んでおります。そのアンケートの内容は、どんなもので、なぜされたのか。また、どう公開されたのか。その中身は新聞報道で知り得ていますので、その体罰の中身をあえてここでは触れないで結構ですので、今をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

御存じのとおり、大阪で体罰を原因とするような自殺の事故があったわけでありまして。その体罰については、法的に縛りがあるわけでありまして、そういう重大な事故に鑑みて、全国的に調査があったわけですね。その調査の一つは、今年度4月から1月までの間に体罰として各学校で対応した事例ですね、これについて何件あったかということでございます。

もう一つ、今調査をしているのが、事実確認をしているのがありまして、同じく今年度中に再度聞き直して、子どもたちと保護者の方に聞き直して、体罰を受けたことありませんかと、あるいは見たことありませんかというような調査が第2次の調査でございます。そこで出てきました件につきましては、そのままその数値として数えることはできないわけでありまして、事実確認を各学校で行っているということでございます。それがその1つ目の調査について公表をしたところでございます。

その公表につきましては、いろんなことを検討したわけでございますが、一つは、この公表を契機として、さらにより強い信頼関係を築きたいということであります。つまり、これだけありましたと、これは反省をしていますということで、これからさらに信用していただきたいというのが一つでございました。

それからもう一つは、大変だけれども、やっぱり法的にこの体罰は許されていないんだということを改めて強く意識していきたいということでございます。それは3つ目としまして、同様に、特に各学校の教職員については、その体罰についての意識の向上を図るということで公表にしたわけでございます。これにつきましては、その当該校の若干の範囲においては特定されるということもあつたかもわかりませんが、極力、当事者の特定がないような形での公表を心がけたところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

体罰は絶対やってはならないことです。それが大原則です。教育現場、特にふざけなど、日常学校生活でのルールを無視する子どもたち、そんな問題行動をどう指導するのか、これまた大事な問題です。そんなとき、市としてどう先生たちに指導されておられるのか、お尋

ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いろいろな方の御意見があるわけですが、あの自殺事件につながったような、あれはもう本当に体罰の域を超えるような、いわばかなりの暴力だろうというふうに思うんですね。ですから、体罰、体罰と言いますけれども、本当に今、私に聞こえてくる声は、うちんとはこうされたみたいだけど、体罰と思うとらんよというような声も片方にあります。そのような体罰、あるいはやっぱりこれは学校で対応しないとイケない体罰であろうと。あるいは、いや、これはもう体罰の域を超えているぞというような、いろんな程度によって判断をしていかないとイケない面があろうかというふうに思います。

ただ、どうしても法的には守れないところがございます。体罰をした場合にですね。ですから、その事情等を踏まえて対応していくということでもありますけれども、そこだけ見ると、それだけで大変なんですけれども、やっぱり日ごろからの信頼関係をいかに築いておくかというところが非常に大事なことかなというふうに思います。ひどい言葉をかけて、その次のフォローはどうしているかとかですね、厳しく叱った後の対応とか、あるいは本当にその子の気持ちを理解した上で言葉になっているかとかですね、そういうようなところを十分今度も指導していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

体罰等が報告されたときに、どう検証し、公表するのかについてお尋ねしたいと思います。

先ほども言いましたように、私は体罰など暴力は絶対だめで、肯定はしません。しかし、公表されるリスクを恐れ、教育や指導がおろそかになり、荒れた学校、荒れた教室、それを見て見ぬふりをする先生、そんな学校にしたら、誰でもが不幸になるわけです。その点、配慮された公表が必要と思うわけですが、その点、また再度になるかと思いますが、公表というものが大事な局面になると思いますけど、その点についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市内では、この五、六年の間でも、たたかれてもたたかないで指導してもらった先生もたくさんおられます。公表が配慮はしないといけませんけれども、ある一定の限度であれば、これはやっぱり生徒指導上、厳しい措置もしないといけませんし、あるいは生徒がそうであれば、自己防衛というのは当然あるわけでありますので、先生方についても、そういう対応

も考えないといけない。ただ、13、14、15の子どもたちであります。わからなくてするのも非常に多いわけでありまして、したがって、その内容によりまして、公表するところは公表をして、そして先生方にとっても、その対応をしっかりと考えていくということが、これから大事になってくるかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私も今度、体罰とかいじめというものを教育のことについて、私なりにいろんなところに聞いたり勉強したりしました。その子どもというものには待たなしのそのときです。大事に指導してもらえるようにしたいと思います。

最後に、いじめにしても体罰にしても、未然防止と早期発見、早期対応が大事で、それをしっかり地域を含めて支えることが大事だと思っています。先生も安心して教育指導ができ、武雄での教育生活は楽しく充実しているよ、子どもや保護者からは、楽しく元気に学校生活を送っているよと、いわゆる教育環境が武雄市にもあるよとなるようなことを願って、教育問題の質問を終わります。

次に、農業問題です。

13年度予算が閣議決定がなされ、その中で農林水産関係予算が2兆2,976億円と、伸び率5.7%、13年ぶり増加と、1月30日の新聞で報道され、安倍総理は攻めの農林水産業を展開し、成長戦略の話し合いに出るための予算の増額に転じた農業農村整備事業の復元、経営安定化対策、戸別所得補償制度の堅持、農産物の輸出拡大対策、経営多角化の3項目に特化した政策として発表されていますとあります。

そこでお尋ねです。武雄市では、具体的にどんな農業振興策を考えられ、どう進めようとしておられるのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

武雄市の農業振興策をどう考えているかということでございますけれども、今現在、農業者の高齢化、担い手不足、あるいは先ほど議員さんもおっしゃられましたけれども、TPPの動向等、農業情勢を踏まえた地域農業を維持していくためには、後継者や新規就農者の確保が重要であると認識しております。そのためには所得が向上するような農業を展開していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、所得向上は大事だと思っておりますので、よろしく申し上げます。

次に、将来の地域農業を考えたときに、平成24年度より人・農地プランが制定されているが、それではどのような内容なのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

人・農地プランは、どのようなものかということですが、地域農業の5年後、10年後をどのような方向に持っていくかということで、地域の話し合いによって、担い手の農地の集積、地域農業のあり方などを市内9町ごとに定めているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

人・農地プランを進めていくために、重要な担い手対策について質問します。

まず、ことし1年、武雄市内で新規就農者はどれくらいおられたのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

平成23年6月1日から平成24年5月31日の間の新規就農者の数は、農業法人への就農者が7名おられまして、合わせて14名というふうなことになっております。

農業法人以外の7名の内訳につきましては、米、麦、大豆の土地利用型農業に従事される方が2名、それから施設園芸と米麦の複合型が5名というふうなことになっております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

農業は、今のTPP問題など、不透明な要素はあるものの、今の世の中、意外と農業は成長産業で、自分の頭と体で勝負でき、何よりも自然相手ではうそはつかない、人間関係に苦労することはないし、パートナーさえいれば、私は楽しい生きがいのある仕事だと思います。問題は、生きがいがあって楽しい仕事でも、ある程度の規模と経験で育てられる技術と、それらが育ってこそ、ある程度の収入が確保されるものです。それまでには数年かかります。でも食っていくには金が要る。勤めに出れば、最低賃金は保障されています。しかし、農業者には最低賃金は保障されていません。そこに農業後継者が育ちにくい現実があると思うのです。そこに救いの手が差し伸べられているのが、青年就農給付金だと思うのです。その内容と市内での取り組み状況を説明してください。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

青年就農給付金ですけれども、これは準備型と経営開始型というのがありまして、準備型としましては、就農に向けて研修を受ける方への支援を行うものです。経営開始型につきましては、経営リスクを負って就農する新規就農者の経営が軌道に乗るまでの間を支援するものであります。対象者へ年間150万円、最長5年間給付する事業であります。給付の条件としましては、就農者就農予定時の年齢が45歳未満であること、それから親元就農ではなく、独立自立就農であることなど、幾つかの条件があります。

平成24年度の対象者は1名でありましたけれども、平成25年度においては、新規5名の対象を見込んでおります。市としては、地元農家、JA、県と強く連携をしながら、青年就農給付金を積極的に活用しながら、より多くの就農者を確保していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、経営開始型で平成24年度に1名、平成25年度には5名が計画されるというふうに聞いたわけです。私はもっとこれはいい制度ですので、これを情報を広く伝えて、たくさんの方が今は高齢化と後継者不足に悩んでいる農村に入って、頑張る農業者を応援してもらえるようによろしくお願ひしたいと思ひます。

そんな中、市内では私たちと同じ6代のお勤めをリタイアされた新規就農者がアスパラガス栽培に、またキュウリの生産農家などでは、高度の省エネルギーのハウスなど、佐賀の強い園芸農業確立対策事業補助金等を利用し、積極的な農業展開がなされていることは、私たち議員もエールを送り応援したいと思っております。

武雄市の農業を考えると、集落営農についてお尋ねします。この集落営農が今、武雄市の米麦農業の中では大事なウエートを持っているわけです。そんな中で高く評価したいのは、朝日町中野みつば集落営農組合だと思います。この組織をまとめて、より理想の集落営農組合を築いてこられた組合長の岩永敏雄さんが先日亡くなりました。心からの御冥福をお祈りしたいと思ひます。

中野みつば集落営農組合は、よそとどこが違うかといいますと、水田の作付の権利が各農家に放棄させ、その集落営農組合に集積されていることです。そこで、水稻の品種が面で統一されている。すなわちこの地域は夢しづくをつくりなさい、この地域はさがびよりをつくらうというふうな、面で取り組まれているということです。それで、代かき、田植え、稲刈り等、隣から隣へと農機具の移動も近くて済み、より効率のよい作業が行われています。こ

の中野みつばの取り組みをどう評価されているのか。もっといろんな地域で中野みつばのような集落営農組合ができ、またライスセンターを中心にできている橋下集落営農組合のような、水田農業を核とした集落営農組合ができればいいなと思っております。その点、どうかこれらの集落営農組合を評価し、推進しようと思っておられるのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

現在、市内には47の集落営農組合がありまして、人・農地プランにおいて、担い手に位置づけられております。従前より農地集積による作業の効率化、機械の共同化による経費節減、作業の効率化、共同購入による経費削減等、担い手の創出、後継者の育成など、地域農業の継続に重要な役割を果たしておられると思っております。特に中野みつば集落営農組合や橋下営農組合につきましては、市内の先進的な事例として参考にしているところであります。JAや県などと連携をしながら、ほかの集落営農についても、法人化を含めて、それぞれの地域の成熟度に合わせた組織の強化、指導を行ってまいります。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

機械の効率化ということで、大事なところで、今、農業集落営農組合はつくっているわけです。私も以前、機械利用組合ということで、ライスセンター等ができる30年か40年ほど前にそんな組織を一生懸命頑張ってきたわけです。結局、その時点では、機械の有効利用ということで、個人の農機具の処分というものがなかなか進まずに、個人が持っているところと持っていないところが機械利用組合でやるということで、その組織でしたので、長くは続かずに終わったわけです。今度は農機具も高いということで、機械の効率化のために農機具の整備は大分進んでいます。しかし、今言いましたように、中野みつばのような作付の面的な確立ができれば、もっと効率ができるということも、もっと訴えているような場でこういう形が、集落営農ができれば安定した農地への配当、またオペレーター収入等があつて、農業が確実に進むんじゃないかなと思っておりますので、その点よろしく御指導お願いします。

次に、麦、大豆振興では、排水対策と思っているわけです。今はどうなっているのか、将来展望はどう考えておられるのか、お尋ねします。

私は地域営農を考えると、今は排水をする場合、私の農地の排水をしてくださいと、手挙げ方式で行われています。それでは面としての生産性の高い農業振興を考えると、どうしても効率のよい農業振興はできません。なぜなら、さきに述べましたように、今では農地が将来営農や小作により地主から離れてしまい、直接排水をしたからといって農地からの所得向上にならず、反対に経費負担になっているのが現実です。でも、排水対策をやらないと、

その水田の多面的な利用はできないのです。そこが今の問題です。費用負担等も含めて改善されるべきと思います。また今回の国の農業振興策にのっとり、よりよい振興対策として、圃場整備農地のより広い農地への再圃場整備等も含めて、排水対策等も含めて、ぜひ振興施策を考えるべきと思います。この農地の面での農業振興対策というものをどう考えておられるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

農業の効率化、営農の効率化ですけれども、地域農業の継続のためには、圃場の条件整備というのは重要と位置づけておりまして、各種事業等の取り組み、農家負担の軽減など、その地域営農組織の実態を踏まえながら、事業を推進していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

間もなく5時になりますが、議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ地域の声を聞きながら、よりよい農業振興になるようによろしくお願いします。

次に、ブランド農産物についてです。これが最後ですので、よろしくお願いします。

（「頑張れ」と呼ぶ者あり）

生き物を育てるお米付加価値向上という新聞報道を見たわけです。それは兵庫県の丹波地区の話でありまして、ここは以前、日本中に生息していたというコウノトリが最後の生息、今、コウノトリの保存地域として頑張っているところです。そこでは、コウノトリを守るために、農地を冬場にでも水をためたり、また夏場の稲作時期には、ドジョウやカエルさん、いろんなものが生息して、コウノトリがすめるような農地をつくっている。そのためには、どうしても手間暇がかかるということで、そういうことで考えられたのが、生き物を育てるお米付加価値向上ということで、消費者の心をつかみたいということで、いろんな形でインターネット等を利用して対策を考えたそうです。そしたら、今は作付が始まった時点で、予約でその年の米は売れるような地域になったそうです。それが大々的に行われているのが、この米です。

そこで、私は武雄で何かできないかなということを考えたときに思いついたのが、今からの案です。今、平成25年度全国で791万トンを生産しようとして米が生産されます。面積で換算すると、150万ヘクタールです。JAに尋ねますと、その育苗用土です。焼土1トンで苗箱を250箱分ができるそうです。それで、全国で150万ヘクタールとなると、計算上では120万トン、10トンダンプで16万台分が要るということです。これが全国で毎年山が削られ

ていくわけです。その山が削られた跡地はどうしても自然破壊ということで、土石流等、いろんなことにつながって自然破壊につながっています。

そんな中で、また考えられたのが、また新聞で見たわけです。それは今、山里で一番やっかいになっているのがモウソウ竹です。この竹を粉になす機械です。それが福岡あたりの業者が開発したとです。これは市内にあります中山鉄工等がしておりますように、岩を砕く機械だそうです。それに竹をぶち込みますと粉になって、その粉で水稻の稲の苗をつくれば、軽くて水を含んでも従来の土の半分以下の重量になるそうです。

それでこの自然に優しく、また竹というものは、3年たてばまた再生可能なる資源になるわけです。そうすることにより、それがあつたわけです。それをぜひ今、市内の製材所屋さんや建設業者さんに見ますと、せつかくの施設があつているのが現状じゃないかと思つています。そんなところにそういうふうな機械等を導入してもらいまして、竹で粉をつくつた自然に優しい、そして竹というものは油分があつますので、農薬等の利用が極力抑えられるというふうにも載つておりました。それを考えますと、自然に優しい農法です。こんなのでつくつた武雄の稲です。ぜひ自然を守る我々の米を買つてくれませんかというふうな形で、得意の市長のPRで頑張つてもらえば、いいブランド化になるんじゃないかと思つています。もしこれが成功したら、チンゲンサイ、キュウリ、またアスパラガス等の土づくり等にも利用できるんじゃないかと思つています。ぜひ大きなロマンですけど、夢物語として提案したいと思つますけど、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

よくわかりませんが、頑張りたいと思つています。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私は今回、この竹というものは、今、昨年度の平成24年度事業でも、佐賀県の環境税ということで、北方あたりでもその竹を切つて、どこかに集めるという事業が始まつているし、今、地域の区のほうでは、ちょっと名前忘れましたが、モウソウ竹とかいろんな竹を広い単位で処理して集積するというふうな事業がこの前、地域でどがんしますやというふうな話もあつたわけです。それら等を含めたら、おもしろい私は地域循環の農業になるかと思つますけど、よろしくお願ひします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私は議員のほうがよっぽどおもしろいと思うんですがね。それっておいしいんですか。確かに世界遺産米と、能登で、ここでも御講演していただいたローマ法王に米を食わせた男で、もう世界的に有名な高野誠鮮さんのお米、僕はいただいたんですよ。これ物すごくおいしいですよ。物すごくやっぱり工夫がされていて、有機でつくられていて、ジャポニカ米という品種なんですけれども、本当においしいです。これ、普通の単価のやっぱり6倍ぐらいでも売れるというのはよくわかります。

ですので、単に生産者であるとか、いろんな地域が工夫をするというのは、どこも工夫しているんですよ。ですので、そのポイントはおいしいか、おいしくないかなんですよ。おいしいんですか。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私もそれをつくった米を食べていませんので、それはここでは答弁できません。しかし、さがびよりは特Aということで、おいしい米ということが証明されております。それに磨きをかけて生産に愛情と真心を込めれば、おいしい米は絶対できると思っています。そのために私はできれば、この竹の粉を、1町歩ぐらいの量を確保してつくってみたいと思いますので、そのときはよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ぜひ小池議員も一番心配されていると思うんですけどね、環境破壊にならないようお願いをしたいと思うのと、もう1つは、今あるものを活用するという意味では、僕は全く同感なんです。大刀洗のお米、これは山口裕子議員さんもシンガポールで食べたときに、小泉元総理が「これはうまい」と言って唯一褒めた米が、大刀洗のお米なんです。これFB良品にも出ていますが、これ、ご飯に米ぬかをかけてあったんですよ。それが何で米ぬかかけるなんて、せっかくおいしい米に米ぬかかけたらおいしくないでしょうと思ったら、食べたらきな粉みたいで本当においしくてね。ですので、それもすごく無農薬とは聞いていませんけれども、低農薬でちゃんとつくっていると。ですので、やっぱり議員が竹を使ってご飯を僕に一回食べさせてください。それで議員もおいしい、私もおいしいとなると、それはやっぱり売れると思います。

確かに全国、値段が高くてもおいしいお米を待っている層というのは確実にあります。それで、今、和食に回帰しています。世界食遺産ですよ、和食がどうも認定されそうなんです。という意味からすると、和食回帰というのは健康志向であるとか、地産地消も含めて、そこに物すごく今戻ってきていますので、そこはチャンスがあると思いますので、ぜひその

際は、山口良広議員の顔を焼き印したもので出したいと、このように思っております。焼き米。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

竹というものを言ったのは、今、一番里山でやっかいになっているのがモウソウ竹の林です。これをどう切って、どう処分するかというのは、里山の自然を守り、いろんな大事な事業につながると思いますので、ぜひ一緒になって検討して、いいものをつくっていきたいと思います。

これをもって私の質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で5番山口良広議員の質問を終了させていただきます。